

2013年12月 ほんいろいろ 「うま」のほん

書名	著者	出版社	請求記号	内容
名馬キャリコ	バージニア・リー・パートン／絵・文 せた ていじ／訳	岩波書店	えほん／ハ	ハンクと馬のキャリコは、子どもたちのために、クリスマスのお祝いを計画しました。ハンクは馬車にのって、町へお祝いの贈り物を買いにいきました。帰るとちゅう、ハンクの馬車は悪党たちにおそわれたのです。そのとき助けにきたのが、キャリコだったのです。
この世でいちばんすばらしい馬	チェン・ジャンホン／作・絵 平岡 敦／訳	徳間書店	えほん／チ	むかし、生き生きとしていまにも動きだしそうな馬の絵を描きたいと願うハン・ガンという少年がいました。ある晩のこと、武将にたのまれハン・ガンは馬を一頭、描きます。しかし絵が完成しても馬は動きません。ハン・ガンが燃えさかる火に絵をくべたとたん…。
ウマの絵本 (そだててあそぼう 85)	こんどう せいじ／へん もり まさゆき／絵	農文協	649	ウマって、どんな生き物？テレビや本などではよく見るウマですが、実際に、見たり触ったりする機会は少ないですよ。この本では、働くウマから、食べるウマ、ウマの種類やヒトとの歴史、飼い方や乗り方などを紹介しています。身近な動物だけど、意外と知らないことも多いはず。きつと新しい発見がたくさんありますよ。
きみはなにどし？ (たくさんのふしぎ傑作選)	加藤 信夫／文 U. G. サトー／絵	福音館書店	148	2014年はうま年ですね。12年の中で、毎年違う動物で年賀状を飾ってくれる干支ですが、いつ、どこで、どうやって決めたのか知っていますか？干支の歴史はとっても古くて、元になったものは大昔の中国からやってきました。干支は外国にルーツがあるんですね。この本では、ほかに干支に関するあれこれを紹介しています。
馬車でおつかいに	ウィリアム・スタイク／さく せた ていじ／やく	評論社	えほん／ス	おひゃくしょうのパーマさんは、エベネザーじいさんに馬車をひいてもらい町へやさいをうりにでかけました。やさいはすっかり売れて、家の者へおみやげが買えました。ふたりが家路につこうとすると、いなびかりが1本の木を切りたおし、馬車の上にたおれてきました。さあたいへん。
干支を飾る グリーティングカード (しかけ絵本教室 4)	菊池 清／著	大日本絵画	754	12匹の干支は、昔から日本人のくらしになじみのある動物たちです。この本では、干支をデザインしたいろんなグリーティングカードの作り方を紹介しています。開くと立ち上がる、引くと飛び出す、顔が飛び出すなど、しかけが楽しいカードが作れます。2014年の干支は午年。馬のグリーティングカード作りに挑戦してみませんか？
こうま (ほーら、大きくなったでしょ 11)	ゴードン・クレイトン／写真 山口 文生／訳	評論社	489.8	ぼくはうまれたばかり、足はよろよろしている。ミルクをのんだら、しっかり立つことができた。一週間たつと背がだいぶのびたよ。二週間後には歯がはえてきたんだ。四か月目になると、栗毛色にかわったよ。五か月がすぎた。おとなのなかまいる。こうまの成長する様子が、写真でよくわかるよ。
ソフィーは乗馬がとくい	ディック・キング＝スミス／作	評論社	9-0/キン	ソフィーは一度決めたらあきらめずにやりぬく女の子。4才からの「女牧場マン」になる決心は、6才になっても変わりません。生き物が大好きなソフィーは黒ネコと白ウサギを飼っていて、たんじょう日に家に来た子犬のしつけもしています。家族旅行で行った牧場ではポニーに乗る練習をして、ジャンプにもチャレンジします。
名馬シルバー・ブレイズ号 (新装版シャーロック・ホームズ 13)	コナン・ドイル／作 内田 庶／訳 岡田 正樹／絵	岩崎書店	9-0/トイ	大人気の競走馬、シルバー・ブレイズ号がいなくなった！調教師が殺され、犯人と思われる男はつかまったものの、馬は行方不明のまま。大事な大会をひかえて、馬の持ち主はホームズに捜査を依頼する。親友のワトスンと共に現場へむかったホームズは、来週火曜日の大会までに、馬をさがしだせるだろうか。
草原の白い馬 『子どもに語るモンゴルの昔話』より	蓮見 治雄／訳・再話 平田 美恵子／再話	こぐま社	388	奴隷の子だったモドン・シャナガは、とのさまから白い、おさない馬をもらった。時がたち、シャナガの馬は、まっ白い、よく走る馬になっていた。とのさまのわがままむすこが、シャナガの白馬をほしがった。シャナガがことわると、とのさまの兵士たちが、シャガナと白馬を捕まえにやってきたのだった。
駆けぬけて、テッサ！	K. M. ペイトン／作 山内 智恵子／訳	徳間書店	933/ヘイ	テッサは幼いころ、アカリという馬ときょうだいのように育ったが、両親の離婚で大好きな馬から引き離された。母の再婚相手である義父との折り合いは悪く、孤独な12歳のテッサは学校でも家でも反抗的な問題児だった。行き場のないテッサは厩舎に働きに行かされるが、そこでテッサは人生を変える馬や人々に出会う。
バレエをおどりたかった馬	H. ストルテンベルグ／作 菱木 晃子／訳 さとう あや／絵	福音館書店	9-0/スト	いなかの家でくらしていた馬は、ある日、道に迷ったバレエ団を駅まで案内しました。お礼にみせてもらったバレエが、すっかり大好きになってしまった馬は、自分もバレエダンサーになろうと決めます。ともだちのぶたや、めんどりや、ひつじとわかれて、馬は町のバレエ学校へむかうのですが…。
戦火の馬	マイケル・モーパーゴ／作 佐藤 見果夢／訳	評論社	933/モハ	農場で暮らす少年アルバートと共に育った愛馬ジョーイ。戦争が始まり生活が苦しくなったアルバートの父親は、ジョーイを英国軍に売ってしまう。英国騎兵隊の騎馬として、戦場の最前線に送られ、戦闘でドイツ兵に捕えられるジョーイの運命は…。戦火の中を生きぬく馬を語り手に戦争の悲惨さを描く。スピルバーグ監督で映画化された作品。